



「教師」と人間性

学習指導要領上の記述は、各教科等の解説書を含め、全て「教師」で統一されています。（詳しくは、第26号を参照のこと。）

「教員」と「教師」とでは、受ける印象が異なります。「教師」の方が、リスペクト（尊敬、敬意）の要素がより一層高まるように思います。



私は、小・中学校の「教師」に求められるものとして、「子供への愛情」、「使命感」を前提とした上で、「**専門性**」、

「**リーダー性**」、「**人間性**」の三つがあると捉えています。「**専門性**」は主に学習指導や生徒指導に関すること、「**リーダー性**」はいわゆる統率力、残る「**人間性**」が、どうしても漠然としがちです。

そこで、子供や保護者等が「教師」に求める人間性に関わる言葉を思い浮かべてみることにしました。**誠実、公平、傾聴、共感、親和、感謝、安定、自律、寛容**、等々です。

こうした言葉から浮かび上がってくるのは、**人によって態度を変えない、約束を守る、人の話をよく聞く、親しみやすく思いやりがある、感情に振り回されない、寛容である**、といった人間性です。

「教師」は尊い職です。専門性、リーダー性と併せて、人間性をも高められるからです。

「地力」をつける

シャープ社長 佐伯 旭

企業もスポーツも同じです。急に強くなるものではない。見えないところで努力して「地力」をつけないといけません。地力がないと持続性がない。会社でいう開発力、コスト競争力は一日一日の地力の積み上げからできるものです。今いいからといって慢心し半年もボンヤリしていてごらんなさい。スポーツとそっくり、みるみる実力低下。その遅れを取り戻すのは大変です。

出典：「成功への名語録」（講談社編 講談社）

※ スポーツでいう基礎トレーニングに当たるものは何か。継続実施を可能にする習慣化をどう図るか。